

公益社団法人名古屋西法人会 地域社会貢献活動講演会

日時／令和七年十月十四日(火)十四～十五時半
場所／名古屋観光ホテル『那古の間』

NISAと

プロ棋士八段
優待投資家

桐谷 広人氏

株主優待で 人生を豊かに



皆さん、こんにちは。紹介していただきました桐谷広人です。普段は地方の講演会だと大体自転車で行って、ことが多くんですけど、今日は用意がないので走って入ってきました。

今日は「NISAと株主優待で人生を楽しく」というテーマで話しますが、株式投資をされない方も多いと思うので、優待の話だけでなく、私の経験したことも話していきたいと思います。

私は元は将棋のプロ棋士で、十八歳とちょっと遅いスタートで東京へ修行に出て、二十五歳でやっと四段になりました。将棋の世界はプロになれるのは五人に一人くらいで、私は遅かったんで「二十一歳の誕生日の前までに初段にならないければクビだ」という年齢制限まであって、本当に大変でした。入った時は誰でも自信満々なんですけど、なかなか勝てず、二十歳の誕生日を迎えた時まだ二級で、もう後悔しました。「将棋の世界に入るんじゃないかった」と。



そんな時に、十九歳の時に読んだ本が人生に大きな影響を与えてくれました。当時一六〇〇円の『幸福への挑戦』という本で、原題では『心の舵』という、心の中の思ったことが実現するという心理学の本です。著者は外科医のマクスウェル・マルツさんで、人間は見た目よりも心の持ち方が大事で、それが人生を決めるんじゃないかという本を書かれたんですね。

私はその本を読んでから、心の持ち方が大事だと悟り、昇級の一歩になれば「自分は必ず勝てる」と言い聞かせたら、そこから連勝するようになって、首にならずに済みました。

それから初段になった直後、体調を崩して三カ月休養した時も、大山名人が私の同級生の母親に「桐谷さんは八段になりますよ」って言うてくれたと聞いて、それを聞いたら急に元気が出て、ご飯が食べられるようになって復帰できました。

大山名人は後年「仲間内のことを聞かれたら褒めることにしとるんですよ」とおっしゃいましたが、それでも人から褒めてもらうこと、そして心の持ち方が非常に大事なんだなと思いました。

また、初段で二年間も停滞していた二十二歳の時、将棋連盟の事務員だった内田さんという女性と友達になったんです。

誰もが高校卒業ではプロは無理だと断言する中、彼女だけが「桐谷さん、必ずプロ棋士になれますよ」って言うてくれた。彼女は将棋を知らない人ででしたから、お世辞ではない。その言葉に元気が出て、そこから急速に二段、三段と昇段していきました。大山名人の言葉と彼女の励ましが、私にとって非常に大きかったと思います。

二十五歳でプロ棋士になり、二十九歳からは東京証券業協会の将棋部師範を二十数年間勤めました。その付き合いで一九八四年に株式投資を始めます。最初は西華産業という株を買って、一カ月もしないうちに五万円ぐらい儲かっちゃって。働かないでこんなお金を儲けていいのかなと思いつつ、将棋の本職よりいいんじゃないかとさえ思いましたね。

バブルの時代でしたから、どの株を買ってもどんどん上がる。そこで自分のお金でやるだけでなく、借金で大きくやればもっと儲かるんじゃないかと思って、信用取引を始めたんです。そうしたらバブルが弾けて、五年ぐらいかけて儲けた一億円を八カ月で擦ってしまい。株に気を取られて将棋の成績もボロボロになり、順位戦で十戦全敗したこともありました。

その後も山一證券の破綻やリーマンショックで大損しました。特にリーマンショックでは、信用取引でナンピン買いを続けたせいで、三億円あった金融資産が六分の一になってしまった。一番安くなったところで株を売らなきゃいけないという破綻寸前の状況に陥ったんです。でも、その時も長く忘れていた『心の舵』の教えを思い出して、「必ず失った富を取り戻すんだ」と毎日念じ続け、数年で取り返すことができました。



信用取引、借金でやる株は非常に危ない。値上がりを狙うだけの投資も危ないですよ。

最近、日本は貧しくなっていて、エンゲル係数が四十三年ぶりの高水準を占めました。税金や社会保障費の割合もどんどん上がって、生活は苦しくなっています。フランスの経済学者トマ・ピケティさんが『21世紀の資本』で、株と土地は賃金や物価の上昇をはるかに上回って上がっていくと証明しました。だから、預貯金のある人は株式投資をやった方がいい。

去年から新NISA制度が始まりました。旧NISAより非課税枠が大幅に増え、永久に税金がかからないという非常にいい制度です。でも、まだ日本人の四人に三人は株式投資

をやっています。最近話題になっているテスタさんのような天才はごく一部で、普通の人は値上がり狙いの投資では損することもあるから怖いと思うんですね。そこで私が勧めたいのが、NISAを利用した株主優待を目当てにした分散投資です。

世界中の株は値上がりか配当で儲けますが、日本には独自の株主優待制度があるんですね。日本の上場企業約三九〇〇社のうち、四割強が優待制度をやっております。配当があつて優待のある株がいいんです。優待株の分散投資なら怖くないし、ほとんどの人が利益を得ることが出来ます。なぜなら、業績が悪くなると配当はなくなる会社が多いですが、株主優待は続けてくれる企業が多いからです。優待は一度始めると、なか

なかやめないという確実性がある。

私は家賃と公共料金以外は、すべて優待で賄っていると公言しています。身につけているものもほとんど優待品ですよ。例えば、今日初めて着けたリュックはSACSBAR(サックスバー)の優待でいただいたSACSBAR(キプリング)のバッグ。カーディガン風のはZONOS(アルペン)の優待券で期限ギリギリに買ったもの。履いているズボンはZONOS(ライトオン)の優待です。株価は下がっても、優待券は継続して来るという利点があります。リーマンショックのピンチも、私が当時四〇〇社持っていた優待株の分散投資で乗り越えることができました。

今日優待でないのは、金沢で時計

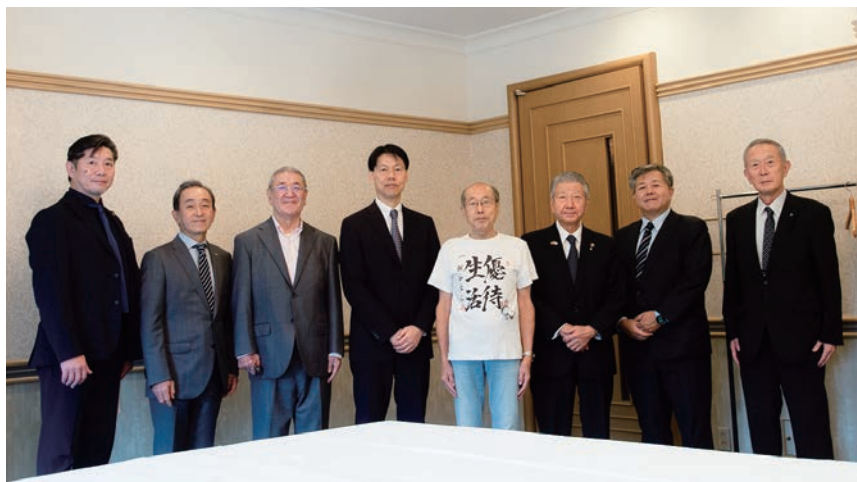
屋さんにいただいた時計と、あともう一つ、名古屋の方が作ってくださいたこの今着ている『優待生活』Tシャツです。あとは身に付けているものは全部優待なんです。

とにかく、優待株の分散投資が一番いい方法だと思います。安い株を買ってじっくり持ち、株価が下がっても優待をもらいながら待つ。議決権行使をするだけでもクオカードがもらえたり、お菓子のセットが来たりする特典もあります。

まずは、雑誌の『ダイヤモンドZAI(ザイ)』や『日経マネー』を立ち読みして、良さそうな銘柄を手数料がただのネット証券で買ってみる。優待株を買うところから、人生を豊かにしてほしいですね。

ご清聴ありがとうございました。





桐谷 広人 氏

きりたに ひろと

プロ棋士八段、優待投資家

- 1949 年 10 月 15 日生まれ。広島県竹原市出身。
- 1975 年 25 歳でプロ棋士四段になる。
- 1984 年 東京証券協会の将棋部師範をしていたことをきっかけに株式投資を始める。
- 2007 年 七段で現役棋士を引退（57 歳）。株式投資に力を入れる。直後にサブプライム問題。
- 2008 年 リーマンショック時に信用取引で大損。3 億の金融資産が 6 分の 1 に。以後、現金をほとんど使わないで、株主優待生活を送る。
- 2013 年 「月曜から夜ふかし」でブレイク。独特なライフスタイルがテレビでも人気で、お茶の間の投資家として絶大な人気を誇る。

ご希望者のスマートフォンで一人ずつ撮影される桐谷氏講演後の撮影会は、長蛇の列となりました。

